

2020年12月3日～9日小金井市障害者週間

12月5日宮路楽器ホール1階

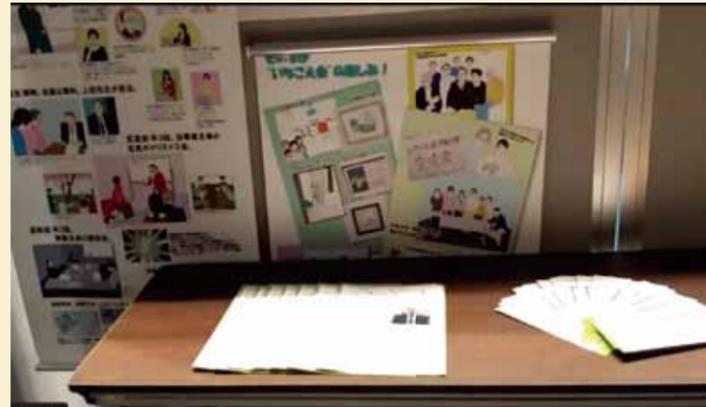
小ホールでのイベントはコロナ禍で人数制限して映画「この街で暮らす 道草」の上映がありました。ひとり暮らしをする知的障がいがある方々を追ったドキュメンタリー映画でした。

1Fホールでは市内の障害者団体のポスター、チラシの展示あり、いちごえ会もタペストリーなどを展示しました。作業所の物品販売は美味しそうなお菓子や可愛い手芸作品の販売が行われ、多くの人が集り、にぎやかでした。 地下の市民ギャラリーでは

障害者の美術展が行われ、鮮やかな色彩であふれる躍動感があり力作が揃っていました。



地下の美術展風景



いちごえ会はポスター、タペストリー、会報など資料を展示、来場者にいちごえ会の紹介をしました。出席者 増村幸子、村田雅英

オンライン研修会 高次脳機能障害のある方を 支援するための応用知識

主催 調布市社協

調布市役所・社協ともに高次脳機能障害への理解と支援に熱心で盛沢山のオンライン研修会でした。

事例説明(東京慈恵会医科大学附属第三病院リハビリテーション科診療部長 渡邊修先生)

詳細な事例説明の後活用できる社会資源の紹介が行われました。

- ・リハビリテーション(東京慈恵会医科大学附属第三病院作業療法士 大熊諒氏)
- ・相談支援事業所(調布市社会福祉協議会地域福祉推進課障害者支援係 勝山裕太氏)
- ・訪問介護事業所(サンシャインケアセンター サービス責任者 山本琢司氏)
- ・B型作業所(めじろ作業所施設長 大澤宏章氏)

高次脳機能障がい者活動センター調布ドリーム 当事者研究

毎回テーマを決めて通所者の想いを発表しています。親しい通所者(約5人)で自由に話し合いしたことを、スタッフがホワイトボードに書き、それを編集しています。高次脳機能障害者は少ない言葉で本質を表現し驚きと共感が多いです。素直に「困ったこと」「高次脳機能障害がよくなりしたい」など当事者ならではの想いを話し合っています。



編集する村田雅英さん。(調布ドリームに通所中、緊急事態宣言で在宅訓練の課題として編集)

高次脳機能障害者小金井友の会

いちごえ会

たより 26号

2021年3月20日発行



丑

編集責任者：増村幸子
編集者：村田雅英
〒184-0004
小金井市本町 2-20-9-103
ホームページ：http://ichigoe.org/
メール：info@ichigoe.org

第21回交流会 in ZOOM



司会…村田雅英さん



ホスト…保手希一郎さん

初ZOOM交流会でしたが、出雲市、長野県など遠隔地からの参加があり、多彩な顔ぶれで楽しい感動的な交流会でした。保手さん、村田さん、増村会長がサンタクロースの衣装で参加、和やかな雰囲気になりました。

開会宣言、増村会長挨拶後、松嶋有香さんのギター伴奏でいちごえ会の歌(幸せなら手をたたこう)の合唱から始まりました。ZOOMのため音の時差を気にしないで自分流で歌いましたが、何とか纏まりました。伴奏の松嶋さんは苦勞されたようでした。

第一部

自己紹介・近況報告

初参加の方、久しぶりの方、色んな分野の方がそれぞれの想いを話されました。ある方がご自分の発症、起業したばかりの会社の一時休業、奥様の病氣といくつもの苦勞を背負いながら、「お互いに生き延びよう」と話され感動しました。

コロナ禍で思いもよらぬ激動の一年でしたが、来年も当事者はしなやかに、したたかに、結構お気楽に「生きる」を話し合いました。

第二部

*ゲーム1. 中大生によるオンラインビンゴゲーム

お題はクリスマス
中央大学学生の若いアイデアと工夫でビンゴを楽しむことができました。今回の景品は拍手のみでした。

*ゲーム2. 出雲から初参加の祝部(こおり)英明さんによるクイズ
簡単でしたが見事引っ掛かり、愉快でした。

初体験の当事者によるオンライン交流会でした。課題や反省点も多々ありましたが、それ以上に工夫すれば楽しい交流会が出来ることを経験しました。オンラインは遠くから、多彩な方の参加があり非常に有意義で可能性のある交流会で感動と勇気を頂きました。運営委員会・中大生の皆さまありがとうございました。

第18回
2020年10月10日

茶 和 会

第19回
2021年2月20日

第18回

ホスト 松嶋有香さん
司会 望月初美さん

慣れないZOOM茶和会で混乱、開会が30分遅れました。最初は緊張しましたが、すぐに打ち解け、自然に会話が始められました。

近況報告

- ・夫が酒をやめられない。
- ・家族の忠告は聞き入れられない。
- ・他人からの忠告が効き断酒できた。
- ・デイに週5日通所、絵を描き、自宅での入浴は気持ちがいい。
- ・湯上りに赤ワイン、焼酎を楽しんでいる。

ホストの松嶋有香さんに準備一切をお任せしました。回を重ねるに従い、慣れて自然体で話せるようになります。最初、誰かに手伝ってもらいZOOMアプリをダウンロードすれば次回から簡単に参加できます。

今後講演会、会議など幅広くオンライン利用になります。挑戦して可能性を拡大しませんか。

参加者 松嶋有香・望月初美・後藤香代・宮澤顕子・村田雅英・増村幸子7名(敬称略)

第19回

司会 望月初美さん

今回は13時から中央大学緑川ゼミの招待交流会が予定され、当事者の参加が多い茶和会でした。

役員は慣れないオンライン作業でご案内・申し込み操作に戸惑いもありましたが、始めれば和やかな雰囲気になりました。たとえオンラインでも久しぶりに会う当事者は元気で明るく、高次脳機能障害が良くなった笑顔でした。

近況報告

- ・コロナで外出機会の減少し、ストレスが溜まり、運動不足で10kg体重増加した。
- ・運動が第一をモットーに週20km走り込んでいる。
- ・生活訓練通所がコロナで在宅訓練に、課題として当事者の悩み、今の気持ちを自由に発表した言葉集を編集している。
- ・当事者が復職して困ったこと・解決法を小冊子にまとめ医療機関に配置する。

12時50分、次の中央大学招待ZOOM交流会に移行しました。参加者11名。



できるを掘り起こそう

会長..山下晃司さん
ゴスペルクワイヤさくら



文化祭でゴスペルクワイヤさくらのみなさんと



《地図に残った現場》
愛媛県松山市の新設国道で法面対策行った:11ヶ月頑張りました。

2012年1月くも膜下出血で倒れ、目覚めた時何でここにいるのか妻の顔さえ解らず、真顔で『誰?』と聞いていた。

リハビリの療法士先生にムカついたり、とても、普通に帰れる状態ではなかったようです。

今は、元の職場に戻って、朝夕通勤電車で揺られ仕事をしています。でも、病前みたいな『現場』へ出る事、『設計計画』する事が出来ないけど、今まで培ったノウハウを後輩に残す事、いろんなデータを残すべく仕事で、日々パソコンと格闘しています。

リハビリに通い出した頃は、2~3時間前の晩御飯に何を食べたか記憶出来なかった。それが、とても悔しくて、妻から質問されるとイラついていました。今、こうして復帰出来たのは妻のおかげで、とても感謝しています。

まだ長い道を趣味の『ゴスペル』で楽しんでいこうと思います。

生きているだけで丸もうけ

生きていれば必ずいいことがあります。
楽しいことを見つけましょう。

元交流会運営委員長 山下晃司 63歳 記



中央大学緑川ゼミとのオンラインコラボ

こんな時こそ話しませんか

2021年2月20日13:00~

中央大学緑川ゼミといちごえ会の交流は8年になります。中央大学緑川ゼミから毎年新しい3年生がいちごえ会の交流会に参加され、またいちごえ会からも中央大学交流会に参加しています。卒業後福祉方面への就労の方もあり、ゼミ生といいお付き合いが続いています。

コロナ禍で閉塞状態だからこそ、高次脳機能障害者と若い学生さんと話し合うことは大切です。そのような思いで話し合い、交歓しました。



緑川ゼミ生 いちごえ会 他の団体の皆さんと和やかに交流できました。

講演 私の脳梗塞と障害理解

講師 関啓子先生 三鷹高次脳機能障害研究所所長

関啓子先生はST(言語聴覚士)であり、失語症になられた経験からリハビリテーションの解説を丁寧にゆっくりと繰り返し話されました。他の講演会ではややもすると失語症者はある一つの言葉の理解に戸惑ってしまうと、その後の話について行けない状態がありました。今回、或る失語症者は最後までZOOM画面を熱心に視聴していました。

ゼスチャーゲーム

ZOOMで緊張気味でしたが、学生さんの面白いゼスチャーで笑いに包まれ和やかな雰囲気になりました。

座談会

幾つかの班に分かれ少人数で意見交換しました。ホストの学生さんからは、一生懸命話を引きだそう、盛り上げようとする思いが伝わってきて、微笑ましく心温まる時間を共有できました。

交流会 感想

緑川ゼミ生 青木さやか

新型コロナウイルスの影響により、対面ではなくオンライン上での交流会ということでは限られており、何度も話し合いを重ねました。交流会当日は、いちごえ会の皆様をはじめ多くの方に参加していただき、これまで私たちが考えてきたものを通して皆様と関わることができたことに嬉しさを感じました。この経験を糧に、今後もメンバーで支え合いながら活動していきます。ご参加くださった皆様、改めてありがとうございました。

いちごえ会 増村幸子

この経験が若い学生さんにいい肥やしになって欲しいと思いました。ありがとうございました。

